

家庭血圧測定機能および身体活動計搭載のマルチセンサーABPMを用いたICTによる全国血圧追跡研究

自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門
教授 苅尾七臣



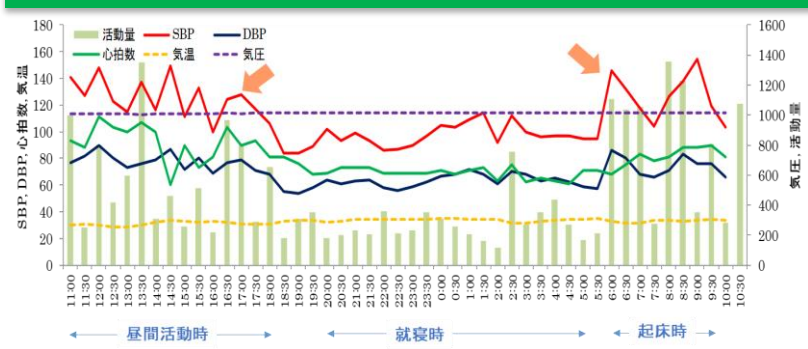
高血圧に対する血圧管理の重要性が認識される中、2017年に改訂されたアメリカのACC/AHA高血圧管理ガイドラインでは、高血圧診断、降圧目標値を130/80mmHgと規定、さらに診察室血圧のみならず、家庭血圧、24時間血圧(昼間)も同値に設定されました¹⁾。世界基準値 (Universal Blood Pressure Level) とも表現される今回の改訂基準値の設定により、今後の高血圧治療の方向性は、早朝から、より低値へ、さらにパーフェクト24時間血圧コントロールへと、**徹底した血圧管理を求めるもの**になると考えられます。

2017年、自治医科大学では、**マルチセンサー搭載ABPM**を使用した全国血圧追跡研究 (HI-JAMP研究) を立ち上げました。このABPMは、我々が共同開発に携わり、24時間血圧に加え、診察室/家庭血圧も測定でき、**同一アルゴリズムにより、日内変動、日間変動が評価できます**。また、身体活動量、気温、気圧センサーが内蔵されており、各因子のトリガー感受性が算出されます。

最近の研究では、同一集団で夏場に比して冬場の身体活動感受性が增大することが示されています²⁾。HI-JAMP研究は、高血圧患者様の血圧特性と生活環境データから、血圧変動のトリガー因子とその影響の程度を検証することを目的とし、全国5,000名のデータベースを構築して、高血圧患者の個々のリスク予測から心血管イベント抑制の実現を目指します。

1) Kario K: Circulation. 137:543, 2018
2) Kario K et al: Prog Cardiovasc Dis. 60:435, 2017

新ABPMを用いた測定例 - 冬季の活動量感受性典型例 -



◆HI-JAMP研究の概要

ベースライン情報

- 【調査項目】
- ・ABPM
 - ・家庭血圧
 - ・患者背景
 - ・血液・尿検査
 - ・心電図(オプション)

5年間の予後追跡

- 【主要評価項目】
- 心血管イベントの発症
- ・脳卒中
 - ・大動脈解離
 - ・死亡
 - ・心血管疾患
 - ・心不全

謝金
1件2000円

【新たな解析視点】 個人の血圧上昇の生活・環境要因を同定する

- ・気温感受性
- ・身体活動感受性
- ・気圧感受性

目標症例数: 5,000件

保険適応
200点

ICT-based Multisensory ABPM

血圧測定機能

- ・24時間血圧 (ABPM)
- ・家庭血圧 (Home BPM)

マルチセンサー

- ・加速度センサー
- ・気温計
- ・気圧計

◆同一のアルゴリズムで、24時間血圧と家庭血圧を連続的に評価します
◆血圧測定時の生活環境情報を、同時取得できます

【お問い合わせ先】
HI-JAMP研究事務局
自治医科大学 内科学講座循環器内科学部門内
事務局長: 星出 聡
担当: 原田 紀子
TEL: 0285-44-2130 FAX: 0285-44-2132
E-mail: hi-jamp@jichi.ac.jp

